

「シャインマスカット」の種なし化には ストレプトマイシン処理が有効

ブドウの種なし化は、主にジベレリン処理によって行われています。しかし、注目の新品種「シャインマスカット」は、ジベレリン処理のみでは種が残りやすい性質があります。

「シャインマスカット」では、ブドウの種なし化に登録があるストレプトマイシンを処理することで、種なし化率が向上します。

● ストレプトマイシン処理 による種なし化率向上 ●

「シャインマスカット」は、ストレプトマイシン処理を行うことにより、ジベレリンのみの処理と比較して種なし化率が向上します。満開14日前から満開始期に花房散布する方法と満開期にジベレリンと混ぜて花房浸漬する方法があります。

表1 ストレプトマイシン処理が「シャインマスカット」の種なし化率に及ぼす影響（平成20年）

処理区	処理方法			種なし化率 (%)
	満開 14日前	満開期	満開 10~15日後	
散布	SM花房散布	GA花房浸漬	GA果房浸漬	100
浸漬	—	SM加用 GA花房浸漬	GA果房浸漬	100
無し	—	GA花房浸漬	GA果房浸漬	91.7

注) SM: ストレプトマイシン (200ppm)、GA: ジベレリン (25ppm)
種なし化率は全体の果粒数に占める種なし粒の割合

表2 ストレプトマイシン処理が「シャインマスカット」の果実品質に及ぼす影響（平成19、20年の平均）

処理区	1粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸含量 (g/100ml)	縮果粒率 (%)
散布	16.3	18.4	0.26	26.6
浸漬	16.4	18.2	0.26	23.3
無し	15.9	18.2	0.27	24.1

注) 処理区の詳細は表1参照

● 果実品質には影響を及ぼさない ●

ストレプトマイシン散布、浸漬いずれの処理も、「シャインマスカット」の果実品質には影響を及ぼしません。

1粒重は約16gで、糖度は18%を超え、酸含量および縮果粒率も無処理と同等です。

● 現場でも効果を確認 ●

平成19～20年に調査を行った現地試験栽培圃場でも、ストレプトマイシン処理を行うことにより種なし化率が向上しました。

100%種なしの「シャインマスカット」生産が可能になると、生産者から高い評価を得ています。

今後、「シャインマスカット」の栽培拡大が見込まれていることから、関係機関とともに現地実証を重ねて本技術を普及させていきます。

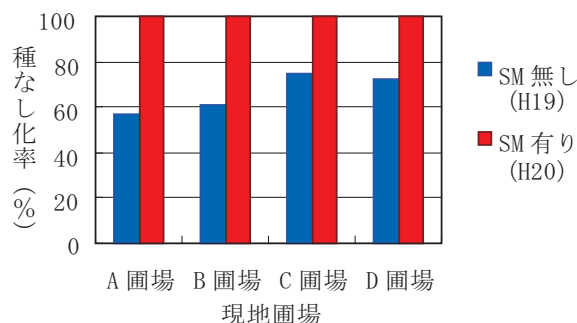


図1 ストレプトマイシン処理が「シャインマスカット」の種なし化率に及ぼす影響

注) ストレプトマイシン (SM) は1回目のジベレリン処理に加用して花房浸漬処理